



本市における感染者数の推移をふまえ、これまでの感染防止策の成果と課題、収束に向けた見通し、今後の対策の展開について質しました。市長から「これまで検査・医療提供体制の確保、保健所の強化、市民への積極的な広報などを行ってきた。今後さらなる検査体制の拡充や、県と連携した病床の確保、疫学調査に専念できる保健所体制の整備を進めるとともに、ワクチン接種に向け取り組む」との答弁があり、緊急事態措置が中途半端に終わらないよう、地方自治体としてできる限りの対策を求めました。また、「会派基本政策2019」を基に、非正規労働者も安心できる労働環境整備、障がい者の就労支援策、再犯防止支援など、61項目にわたり質しました。

代表質問のポイント

『会派基本政策2019』に基づき政策提案

令和3年度予算の審議にあたり、私たちは高島市政に対して厳しいチェックを行うとともに、会派が主張する「福岡市のめざすべき都市像」について、生活保障戦略・成長戦略・地域主権戦略・共生戦略の四つの視点から様々な政策提案を行いました。

主な提案としては、保育環境の整備や義務教育に係る保護者の経済的な負担軽減などの子育て支援施策、高齢者の移動や外出を支援する制度の拡充、介護サービスの充実に向けた本市独自の支援策、利用者が急増している自転車対策と快適な歩行空間の整備、中小企業に対する人材獲得支援や起業・新規事業者に対する支援の充実、男女が参画した地域防災力の強化など、新年度予算に反映させるよう求めました。

一灯点滅式信号機の廃止を糧に！

補足質問[3月8日] 近藤 里美 (南区)



長年、市民の安全と交通事故の軽減に役立ってきた一灯点滅式信号機の廃止が決定。263基(昨年12月末)あるすべての信号機の廃止には1億円を超える拠出が必要となることわかりました。一方、当該信号機の廃止や今後は新設されない事実を知らない地域からは今も当該信号機の設置を求める声が挙がっており、大きな政策転換にも関わらず、情報が共有されていないことは重大な課題であることを指摘。赤色方向対策として反射する一時停止標識が設置されますが、黄色方向については、交差点内のカラー舗装や各種路面標示、ゾーン30など、安全性を高めるため積極的に取り組もうとしている地域に寄り添い、個々の交差点に相応しい対策を求めました。

人権侵害を許さない制度・仕組みを！

総会質問[3月22日] 池田 良子 (西区)



法改正により2020年6月から、職場におけるパワハラ防止対策が強化され防止措置が事業主の義務となりました。一方、本市の教育現場における過去10年間のパワハラ相談は27件あるものの認定件数はゼロ件。ハラスメントが要因で心の健康を害し退職や退職に追い込まれるケースも増えつつあることから、教育委員会外に第三者委員会による公平・公正な調査機関や相談窓口を設置することを提案しました。「部落差別の解消の推進に関する法律」制定から4年が経過。2019年に福岡県が「差別解消条例」を制定し、県内35の自治体が制定している中、福岡市内に今なお部落差別があることを踏まえ「福岡市部落差別解消条例」の制定を要望しました。

地場中小企業の「伴走型」支援を！

総会質問[3月24日] 井上 麻衣 (城南区)



コロナ禍を踏まえ、中小企業支援のため商工金融資金の融資枠を確保すべく2,482億円の預託金を予算計上しています。融資は一時しのぎに過ぎず、地場中小企業が継続的に成長していくため、仕事を生み出す施策の実施や慢性的な人手不足の業界への人材移行、再挑戦へのサポートなど、融資に止まらない支援を求めました。

福岡市は起業・創業「スタートアップ支援」を主要施策と位置付けているものの、市内の起業数や廃業数の実態を把握できていません。施策の評価ができていない点を指摘し、起業から一定の軌道に乗るまでのフォローに繋げるべく、補助金や各種減免など直接市が支援した企業においては、創業後の数年間の状況を把握すべきと訴えました。

福岡市消防局、平時も有事も万全の体制を！

補足質問[3月9日] 田中 たかし (西区)



福岡市消防局では、大規模災害等の有る際、警察や自衛隊、空港、また必要に応じて近隣自治体との連携をはかる体制が整っていることを確認しました。一方、電柱倒壊や倒木により通行が困難となる懸念があるため、関連部局と情報共有し迅速な現場到着の支障となるものは改善するよう要望しました。平時の活動である防火査察の実施率や自主防災のための防火管理者の選任率を見ると、他都市よりも低くなっており、消防局の現体制では日常の火災予防業務に限界があることを指摘しました。市の予算に占める消防費の割合や所属する職員数も低く抑えられていることから、予算の確保と職員定数の拡大により、予防業務の充実を図るよう強く要望しました。

30代女性が妊娠を見つめる機会になる!?

総会質問[3月23日] 山田 ゆみこ (博多区)



令和3年度から「プレコンセプションケア推進事業」が始まります。女性やカップルが自らの生活や健康に向き合う機会とし、将来のライフプランを立てやすくするための事業で、30歳を迎える女性にワンコインで受診ができるクーポンを配布する事業で、血液検査の後、医師から体調管理等に関するアドバイスを受けられるものです。一方、妊娠は女性だけでなく男性へのケアが必要なケースもあることや、31歳以上が対象外であることも課題であり、次年度事業を実施する中で改良できる点については対応されるよう要望しました。加えて、対象者の中には子どもを授けられない体質の方がいることを念頭に置き充分配慮し事業推進を図って頂きたいと要望しました。

コロナ禍を乗り越えるためあらゆる支援を！

討論[3月26日] 田中 しんすけ (中央区)



令和3年度の予算審議にあたり、会派が主張する「福岡市のめざすべき都市像」について、①生活保障(一人ひとりの命と幸せを大切にすること)、②成長(人と技術の結びつきが新たな価値を生み出す創造都市)、③地域主権(市民が自ら発言し議論し決定する仕組みづくり)、④共生(一人ひとりの生命と尊厳を守り誰もが安心できる共生社会)という4つの視点から様々な政策提案を行いました。

とりわけ、今議会ではコロナ禍を乗り越えるための感染防止と経済対策の強化を訴えるとともに、市民が安心してワクチンを接種できる環境づくりや、今後の感染拡大に備えた財源確保と予算執行のあり方について提案しました。

おちいし 俊則

コロナ禍の今こそ、公助の出番!!

2月末の緊急事態宣言解除から1月が経過しました。ワクチン接種への期待が高まっていますが、同時に感染対策や検査対策も強化しなくてはなりません。

新型コロナウイルス感染拡大は、これまでの「自己責任」政策の問題を浮き彫りにしています。「誰一人取り残さない」の理念のもと、市民の生活実態に着目した施策が必要であり、とりわけ支援が必要な高齢者や非正規雇用、ひとり親家庭、

若者への相談体制を強化するとともに支援策の周知と拡充等、必要な公助を講じる必要があります。

2021年度の事業として、これまで議会・委員会で意見・提案していた施策が実現・拡充しました。現在、市民相談を行っています。お気軽に事務所に連絡ください。皆さまのご意見を市政に届けていきます。



【2021年度新規・拡充事業】

みなさんの声・要望が実現します!

子どもたちへのカウンセリング体制の充実を【スクールカウンセラー増員】

いじめや不登校等、子ども達が抱える様々な悩み・不安を解消するためには、担任の先生以外の人的配置が必要です。公認心理師・臨床心理士の資格を持つスクールカウンセラーが63名増員されました。コロナ禍、更なるカウンセリング体制の充実が求められます。

■学びと学び直しの場の保障を

【公立夜間中学開設に向けてのニーズ調査】

夜間中学は、病気や家庭等の事情により義務教育を終えていない人たちが不登校等により中学校を形式的に卒業したものの、学び直しを望む人たちの学びの場になっており、現在8都府県に34校設置されています。政令市では札幌市や相模原市が来年度開設予定ですが、福岡市をはじめ九州には1校もありません。学び直しの場として早期の開校を求めていきます。

■貧困の連鎖を断ち切るために

【高等職業訓練促進給付金事業の拡充】

ひとり親世帯の貧困率は約48%と依然と厳しい状況にあり、安定した仕事に就ける支援策の拡充が必要です。母親や父親が就職に有利な資格を取得するために専門学校等で修業する場合、期間中は経済的な支援を行う制度がありますが、その対象資格は看護師や保育士等10資格に限られていました。新たに理容師や二級自動車整備士等11資格が追加されました。

■正社員就職実現に向け支援策を拡充

【ミドル世代就職支援事業スタート】

バブル崩壊後の雇用環境の悪化により、正規雇用がかなわず、今なお、不安定就労を余儀なくされている30・40歳代は市内で約1万2千人と推計されています。福岡商工会議所内(博多区)の専用相談窓口で専任相談員と求人開拓員を配置し、正社員就職実現に向け、支援の充実強化を図ります。

■豊かな博多湾の環境を次世代へ【環境保全事業】

博多湾には、多々良川や御笠川等40の河川が流入し、海底ゴミ・海洋プラスチックの増加が問題化しています。この問題の解消のためには、河川流域の近接自治体との連携が不可欠です。2021年度より、福岡都市圏自治体「まちづくりプラン」にプラスチック流出防止策が明記され、啓発を含め連携した取り組みが進められます。



条例予算特別委員会委員長を務める(3/9~24)

春の市政報告会を開催します。

2021年度福岡市予算及び新規・拡充事業等を報告し、ご意見ご要望をお聞きしたいと考えています。参加費は不要です。ご参加をお待ちしています。

■と き:2021年5月23日(日) 受付 10:00/開会 10:30~12:00

■ところ:なみきスクエア 2F視聴覚室 ※JR・西鉄千早駅そば ※新型コロナウイルス感染再拡大の場合は、中止する場合があります。ご了承ください。

PROFILE

1956年4月1日 福岡市東区奈多生まれ
1971年 和白中学校卒業
1974年 福岡高等学校卒業
1979年 福岡教育大学卒業
1979~2006年
27年間、福岡市内の小中学校で教壇に立つ(和白東小、千代小、香椎浜小、東吉塚小、美和台小)
2019年 福岡市議会議員 三期目

所属委員会・協議会等

- ◆経済振興委員会 (経済観光文化局・港湾空港局・農林水産局)
- ◆少子・高齢化対策特別委員会
- ◆九州大学移転・跡地対策協議会
- ◆博多港地方港湾審議会
- ◆福岡市水産業振興審議会

おちいし俊則事務所

〒811-0204 福岡市東区奈多1-10-12
TEL 092-606-4541 FAX 092-606-6878
http://www.ochiishi.jp/
e-mail/info@ochiishi.jp

笑顔をつくる。

